研究ノート　　2022.5.12　　文献を 5 本追加して**更新**

わが国におけるモラルジレンマ授業に関わる理論、実践、及び 教材についての文献総覧（**1968~2020**）；更新

Catalog on Theory 、Practice、and Teaching Materials Related to Moral Dilemma Class in Japan（**1968~2020**）；Renewal

荒 木 紀 幸[*1]

Araki Noriyuki

道徳性発達研究　第 15 巻　第 1 号　2022　33-72.　　日本道徳性発達実践学会

ローレンス・コールバーグ博士の主要論文を集めて翻訳出版された 4 冊の主要図書と「コールバーグ理論の基底」が、文献総覧から漏れていることに、本誌「道徳性発達研究　第 15 巻」が発行になった後に気がつき、改めて本論文で追加修正を行なった．これに伴い年区切りの文献頻度を年代順に棒グラフ表示した図は訂正され、本論文の図 1 となった．新しく加わった 5 冊の内 3 冊はコールバーグが来日した 1986 年前後に出版され、2022 年作成の図 1 と比べ 1985~1987 年の文献出現総数が 16 件から 19 件に増えた．コールバーグの来日により日本における道徳教育への関心が一挙に高まった結果である．こうして、文献総数は688となった．年間文献数の過多で見ると、コールバーグ博士の来日（1985 年）前後に文献数の急激な伸び(第 1 の山)が見られ、その後の文献数は徐々に増え、特に『特別な教科道徳』が誕生し、副読本の「心情理解道徳」から「考え、議論する道徳」へ質的変換が求められた 2014 年頃から発表数は急激に増え、こうして、文献数は2016、2017年をピークとする(第２の山)対数的増加曲線（図1）を示した．モラルジレンマ授業に関連する文献数の推移は日本における研究や実践の広がりをよく反映している．

はじめに

日本と世界の道徳教育の発展に極めて大きな影響を与えた世界的に著名な道徳心理学者、ローレンスにコールバーグ博士の主要な論文を集めて、構成された以下に掲げた 4 冊の翻訳図書と「コールバーグ理論の基底」の 5 冊が、2020 年作成の文献集から漏れていることに、本誌「道徳性発達研究」が発行になった後に気がつき、改めてここに追加修正を行なうものである（図 1）．

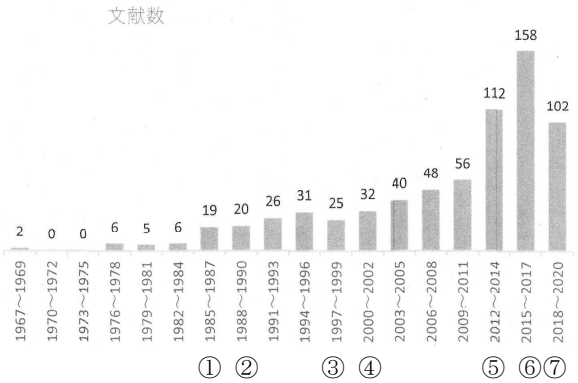

図１ モラルジレンマ授業に関連する3年区切り毎（1968～2020）の発表数の推移（荒木、2022）を688本に修正

①コールバーグの来日 ②4つの視点 ③心の教育 ④心のノート ⑤私たちの道徳、⑥特別の教科道徳、⑦考え・議論する道徳

方法－追加された 5 つの文献

○永野重史(編)　1985　「道徳性の発達と教育：コールバーグ理論の展開」　新曜社

○ 永野重史（監訳）1987 「道徳性の形成：認知発達的アプローチ」　新曜社

○岩佐信道訳（1987)「道徳性の発達と道徳教育－コールバーグ理論の展開と実践」､付：アメリカの道徳教

*1 兵庫教育大学大学名誉教授

育／アン・ヒギンズ．広池学園出版部

○片瀬一男，高橋征仁 訳　1992　道徳性の発達段階:「コールバーグ理論をめぐる論争への回答」新曜社

○佐野安仁/吉田謙二（編）1993「コールバーグ理論の基底」　世界思想社

結果と考察

なお、新しく 5 本の文献が加わった結果、文献総数は 688 となったが、その内訳を発表年度毎にその論文数を示したのが表 1 である。

年度	文献数	年度	文献数	年度	文献数
1968	2	1986	10	2004	12
1969	0	1987	6	2005	13
1970	0	1988	7	2006	17
1971	0	1989	4	2007	18
1972	0	1990	9	2008	13
1973	0	1991	5	2009	14
1974	0	1992	11	2010	22
1975	0	1993	10	2011	20
1976	3	1994	10	2012	33
1977	3	1995	10	2013	33
1978	0	1996	11	2014	46
1979	3	1997	5	2015	45
1980	2	1998	14	2016	55
1981	0	1999	6	2017	58
1982	0	2000	11	2018	52
1983	1	2001	12	2019	31
1984	5	2002	9	2020	19
1985	3	2003	15	累計	688

表 1　年度毎（1968 ～ 2020）のモラルジレンマ授業関連の論文数（688）

表 1 を見ると 1968 年に日本で初めてコールバーグ理論の紹介が行なわれた。この年はコールバーグが博士論文（1958）をシカゴ大学に提出してから 10 年目に当たる。その後 1976 年まで、コールバーグ理論に係わる発表がなかったが、この年の 6 月、日本初の研究論文、山岸明子氏の「道徳判断の発達」が教育心理学研究に掲載された（1976，24(2)、97-106)。翌年には、内藤俊史氏の「(展望) Kohlberg の道徳性発達理論」が教育心理学研究に登載された（1977、25(1)、60-67)。その頃から徐々にコールバーグ理論に関係する研究論文が増えた。

この中で、コールバーグ理論に基づく教育実践の最初の発表が、授業実践研究会で「コールバーグ理論に基づく道徳授業実践の研究」として行なわれた（前田和利・荒木紀幸・吉田重郎・八重柏新治・徳永逸郎・畑耕二、1983、大阪大学)。この時、オープンエンドのモラルディスカッションを特徴とする「１主題２時間のモラルジレンマ授業」が提案され、３つの実践が報告された。

コールバーグが来日した 1986 年には研究論文は急増し，最初の論文数のピーク(第 1 の山)を迎えた。この後の論文発表や実践報告は途切れることなく続いており、2010 年頃からその数が目立って増え、2013 年に、「道徳教育の充実に関する懇談会」が設置され、道徳教育への関心が高まった。「問題解決的な指導の充実」や「道徳の教科化」などが議論された。この結果、問題解決的な学習であるモラルジレンマ授業への関心が一層高まり、関連した研究論文や実践研究が次第に増えていった。2015 年には「特別の教科　道徳」が誕生し、学習指導要領の改訂に伴って 2018 年に小学校で、2019 年に中学校で「心情理解の道徳」から「考え、議論する道徳」へ移行、道徳教育における質的変化が起こった。こうした時代背景の中で、モラルジレンマ授業に関連する研究や実践報告のピーク（第 2 の山）が 2017 年に訪れたことを、表 1 から窺い知ることができる。なお、モラルジレンマ授業関連の研究や実践における年代的変化を示した図 1 において、第 1 の山が 1985~1987 年代に、第２の山は 2015~2017 年代に現れ、先の 2 つの山に対応している．

このように、新しく加わった 5 つの文献によって、第 1 の山がより鮮明になった．これらの文献の詳細を荒木（2022）の別表 1 に準じて示したのが表 2 である．

第 1 の山（1986）は、コールバーグ博士の来日により、わが国の道徳教育界にコールバーグフィーバーが湧き起こったことによる．例えば、明治図書ではコールバーグ博士の来日に合わせて雑誌「道徳教育 86 年 1 月号」をほぼ丸ごと使い、「特集－コールバーグ理論と道徳授業」と「コールバーグ理論にもとづく道徳授業の試み」を組んだ（5-70 頁）．また、これに拍車をかけたのが、コールバーグの主要著書が続けて 3 冊も発行されたことである。こうしてコールバーグ理論への関心が一気に高められた．当時の日本の様子について、荒木は、”なぜ本のタイトルは「道徳教育はこうすればおもしろい」なのか”の中で、「4．コールバーグ博士の来日と道徳教育国際会議」を項立て、当時の関心の高さ、博士を囲んだ研究会、第 1 回道徳教育国際会議の提案、コールバーグ著書の出版等について詳述している（2020、27~29 頁）．

なおコールバーグの主要著書 3 冊は、コールバーグ博士の来日に合わせて出版されており、1992 年出版の”道徳性の発達段階：「コールバーグ理論をめぐる論争への回答」”と 1993 年出版の「コールバーグ理論の基底、佐野安仁・吉田謙二（編）」と相まって、それらは、わが国におけるコールバーグ理論の普及や道徳教育の発展に多大の足跡を残していることが、図 1 に示したモラルジレンマ授業に関連する論文の年代別発表頻度（1868 ～ 2020)、特に 1994 年以降 2020 年までの出現頻度数の推移からも読み取ることができる。

【引用文献】

荒木紀幸　2020　なぜ本のタイトルは、「道徳教育はこうすればおもしろい」なのか　道徳性発達研究　第 14 巻　第 1 号　22-32.

表 2　道徳教育研究、主にモラルジレンマ授業実践に係わる文献集録（荒木、2022）に追加する５文献

番号	著者・発表年・論文名・発表年・頁・出版社	キーワード	概　要　、　要　旨
684	Mischel,T (Ed.) *Cognitive development and epistemology.* Academic Press ,1971 山岸明子、内藤俊史、.永野重史(編) 1985 道徳性の発達と教育：コールバーグ理論の展開 新曜社 全300頁	コールバーグ理論・道徳性の発達・道徳判断の発達	はじめに（永野重史）　第１章　コールバーグ、『「である」から「べきである」へ』（内藤俊史、１章３節まで訳、１章４節～８節、千田茂博訳）．第２章　ピーターズ、「道徳性の発達－多元論の弁護」（上野直樹訳）.第３章　オルストン、「コールバーグの『「である」から「べきである」へ』に対する論評（無藤隆訳）、第４章　山岸明子、「コールバーグ理論のその後の発展」、第５章　内藤俊史、「コールバーグの道徳性発達理論に基づく道徳教育の実践」、第６章　山岸明子、「日本における道徳判断の発達」、解説、永野重史、青年期における道徳判断の発達測定のための質問紙－ DIT 日本版（山岸明子）
685	kohlberg,L. 1969 “STAGE AND SEQUENCE *The cognitive-developmental approach to socialization.*” 永野重史（監訳）1987 道徳性の形成：認知発達的アプローチ 新曜社　全235頁	道徳性の形成・認知発達的アプローチ・コールバーグ理論	1章 認知発達理論と心の構造の起源、2章 社会化と構造-自然主義的研究の誤謬、3章 認知構造からみた社会的発達の例-道徳性の発達段階、4章 認知、感情、行為、5章 役割取得の機会としての社会的環境、付録　コールバーグ理論の新しい展開－主としてギリガンの批判をめぐって－（山岸明子訳）；6章 社会的学習研究と構造変化、7章 社会的学習研究と内面化、8章 模倣-ボールドウィンの理論、9章 同一視-認知発達理論、精神分析学、社会的学習理論、10章 模倣-同一視の認知構造的段階（明田芳久訳）、11章 内発的動機づけとしての模倣-効力感と興味、12章 規範への同調-社会的強化と模倣、13章 モデルと子供-コンピテンスと類似性（神原雅彦訳）、14章 社会的依存性と愛着の発達、15章 同一化の機制と精神病理（樋口一辰訳）、付録-コールバーグ理論の新しい展開（山岸明子）、解説（永野重史）
686	Kohlberg,L.1987 *Stages of moral development as a basis for moral education. &Higgins, Ann,* 岩佐信道訳（1987）「道徳性の発達と道徳教育－コールバーグ理論の展開と実践」、付：アメリカの道徳教育／アン・ヒギンズ.　広池学園出版部 全190頁	コールバーグ理論・道徳性の発達段階・ジュストコミュニティー	広池学園創立 50 周年記念事業で 1985 年 10 月に来日したコールバーグ博士の講演集を（第 1~3 章）、コールバーグ 1971 担当論文（第4章、道徳教育－学際的アプローチ、トロント大学出版会）、ヒギンズ女史の講演（第5章）を集録、訳者は岩佐信道；まえがき、第 1 章『普遍的道徳を求めて－私の個人的体験』、第2章『道徳性の発達段階』、第3章『第六段階と最高道徳』、第4章『道徳教育の基板としての道徳性の発達段階』、アメリカの道徳教育－ジャスト・コミュニティーのアプローチに焦点を当てて－付録 1.道徳性の段階の定義、付録 2.道徳の普遍的な諸価値、付録 3.人間の生命の道徳的価値に関する考え方の六段階、付録４.道徳行為を行なう動機（出典－レスト 1968）、付録５．各段階の答え方の例.
687	道徳性の発達段階：「コールバーグ理論をめぐる論争への回答」1983 コールバーグ，ローレンス〈Kohlberg, Lawrence〉/レバイン，C．〈Levine, Charles〉/ヒューアー，A．〈Hewer, Alexandra〉／片瀬一男，高橋征仁 訳　1992　新曜社 全 312 頁	コールバーグ理論・道徳性発達段階・批判と回答	第１章（片瀬訳）－序論、第２章－コールバーグ理論の現在（1.公正推論の個体発生を合理的に再構成した理論；2.心理学的研究の対象となる道徳領域の拡大；3.ソフトな段階とハードな段階の区別；4.ソフトな仮説的第７段階の設定；5.形式と内容の区別；6.下位段階ＡとＢ；7.道徳的判断と道徳的行為に関する研究；8.社会・道徳的環境に関する研究（片瀬訳）；9.第６段階の希釈（高橋訳）；10.経験的研究に先だつ前提を研究のインプリケーションから区別する（高橋訳）、第３章－批判の概要と回答（前半－高橋訳、後半－片瀬訳）、第４章－要約と結論（片瀬訳）、付録A、B、訳者解説、コールバーグ理論をめぐる論争.
688	コールバーグ理論の基底　1993 佐野安仁・吉田謙二【編】世界思想社　全 308 頁	コールバーグ理論・道徳性発達理論・哲学と心理学の架橋	道徳教育の方法論や発達心理学といった従来の解釈の枠組みを超えて、諸学のアトム的孤立化という現代の学的疎外状況の克服を企てたコールバーグの「道徳性発達理論」の真相を究明する。第１部　教育と道徳教育の一般理論　第1章「発達理論の教育学的基礎（加賀裕郎）」、第2章「ピーターズのコールバーグ批判―教育目的論と道徳教育論の検討を通して（林泰成）、第3章「モラル・ディレンマからジャスト・コミュニティへ―コールバーグ理論の展開（加賀裕郎）」、第２部　認知発達理論とその哲学的基礎、第1章「認知発達理論の基礎構造（隈元泰弘）」、第2章「哲学と心理学との架橋（隈元泰弘）」、第3章「モラル・ディレンマの道としての道徳教育（渡辺英之）第4章「道徳性発達の認識（吉田謙二）」、第３部　道徳性発達と宗教、第1章「公正を支える宗教的志向（佐野安仁）」、第2章「道徳性発達における第七段階の問題―宗教および悲劇との関連に基づいて（梁貞漠）」、第3章「青年期以降における道徳性発達（梁貞漠）第4章「公立学校における道徳教育と宗教教育―コールバーグの道徳・宗教教育論を手引きとして（堤正史）」